

地理空間MCP Server

– MLIT Geospatial MCP Server – (α版)

README — 利用開始手順書

2026.2

国土交通省 政策統括官付 地理空間情報課



不動産情報ライブラリ イメージキャラクター
不動産情報ライブラリス

1. 概要

Claude MCPから不動産情報ライブラリAPIを統合的に呼び出すためのMCPサーバです。
大規模言語モデル(LLM)と直接連携し、対話形式で直感的に不動産情報ライブラリのデータを検索・取得することが可能になります。

以下の不動産情報ライブラリAPIのデータを提供します：

`get_multi_api`(不動産情報ライブラリAPIを統合的に呼び出すことが可能です。)

【利用可能なAPI】(2026.2時点)

- 不動産価格(取引価格・成約価格)情報取得API
- 鑑定評価書情報API
- 地価公示・地価調査のポイント(点)API
- 都市計画決定GISデータ(都市計画区域・区域区分)API
- 都市計画決定GISデータ(用途地域)API
- 都市計画決定GISデータ(立地適正化計画)API
- 国土数値情報(小学校区)API
- 国土数値情報(中学校区)API
- 国土数値情報(学校)API
- 国土数値情報(保育園・幼稚園等)API
- 国土数値情報(医療機関)API
- 国土数値情報(福祉施設)API
- 国土数値情報(将来推計人口250mメッシュ)API
- 都市計画決定GISデータ(防火・準防火地域)API
- 国土数値情報(駅別乗降客数)API
- 国土数値情報(災害危険区域)API
- 国土数値情報(図書館)API
- 国土数値情報(市区町村役場及び集会施設等)API
- 国土数値情報(自然公園地域)API
- 国土数値情報(大規模盛土造成地マップ)API
- 国土数値情報(地すべり防止地区)API
- 国土数値情報(急傾斜地崩壊危険区域)API
- 都市計画決定GISデータ(地区計画)API
- 都市計画決定GISデータ(高度利用地区)API
- 国土交通省都市局(地形区分に基づく液状化の発生傾向図)API



<https://www.reinfolib.mlit.go.jp/>



2. 動作環境

OS: Windows 10 / 11 または macOS 13以降

MCPホスト: Claude Desktopなど

MCPサーバー実行環境: Python 3.10+

メモリ: 8GB以上推奨

ストレージ: 空き容量 1GB以上(キャッシュやログを含む)



3. インストールとセットアップ

前提条件

以下は、Claude Desktopでの利用を想定した手順です。

手順

1. Pythonをインストール
2. Claude Desktopをダウンロード・インストール
3. 不動産情報ライブラリのAPI利用申請
4. ソースコードをcloneする
5. 仮想環境を作成 & 有効化
6. 依存ライブラリをインストール
7. Claude Desktopの設定ファイルを開く
8. MCPサーバーの構成を追加
9. Claude Desktop を再起動



3. インストールとセットアップ

(1) Pythonをインストール

【Pythonがすでにインストールされているかを確認】

コマンドプロンプトを起動してください。Windowsのスタートメニュー検索で「cmd」とタイプすると表示されます。

コマンドプロンプトを起動したら、C:¥~~~~> とでてきます。> の後に続けて python と入力しEnterを押してください。

Python 3.10.X ~~ と表示があればインストールされています。手順2を実施してください。

【Pythonをインストール】

Pythonをインストールしてください。(バージョンは、3.10以上をインストールしてください。)

Pythonの公式ダウンロードページ[<https://www.python.org/downloads/windows/>]から、利用OSに合わせて3.10以上のインストーラーをダウンロードして、インストーラーを起動してください。

インストーラーの指示に従って、インストールを行ってください。

画面下部の「Add Python 3.x to PATH」のチェックボックスにチェックを入れてから、Install Now を選択してください。

※「Add Python 3.x to PATH」のチェックボックスにチェックを忘れてインストールした場合は、環境変数にPython.exeの場所を追加してください。

インストール後にコマンドプロンプトを再度起動して、> の後に続けて python と入力しEnterを押してください。

>>> と最後に表示されていれば、Pythonが起動している状態です。

Python 3.10.X ~~ と表示があればOKです。

quit() と入力しEnterを押して、Pythonを終了してください。



3. インストールとセットアップ

(2) Claude Desktopをダウンロード・インストール

Claudeの公式ダウンロードページ[<https://claude.com/download>]にアクセスし、インストーラーをダウンロードしてください。

ダウンロードしたファイルを実行するとインストールが開始されます。

画面の案内に従って「始める」をクリックし、アカウント認証を行うことでインストールが完了します。



3. インストールとセットアップ

(3) 不動産情報ライブラリのAPI利用申請

不動産情報ライブラリの公式ページ[<https://www.reinfolib.mlit.go.jp/api/request/>]にアクセスし、API利用申請をしてください。

利用に当たっては、不動産情報ライブラリの利用約款を必ずご確認ください。



不動産情報ライブラリとは、不動産の取引価格、地価公示等の価格情報や防災情報、都市計画情報、周辺施設情報等、不動産に関する情報をご覧になることができる国土交通省のWEBサイトです。

Language 

[トップ](#) > API利用申請

API利用申請

APIの利用を申請する利用者情報を入力してください。

すでにAPIをご利用しており変更したい、停止したい場合には、お問合せフォームよりご連絡ください。

[お問合せフォーム](#) 

利用者種別は、反社会的勢力に該当しないか等のAPIキー払い出しの審査、またAPI利用者の属性を把握するために使用します。

- 法人番号をお持ちの団体に所属する方は「法人」を選択してください。
- 法人番号を持たない団体に所属する方は「法人以外の団体」を選択してください。
- 個人的なご利用を希望される方は「個人」を選択してください。

利用者種別	☒ 法人
	☐ 法人以外の団体
	☐ 個人
担当者氏名	必須
メールアドレス	必須
法人名	必須
法人番号	必須

半角数字13桁で入力してください
法人番号は国税庁 法人番号公表サイトからご確認ください
[国税庁 法人番号公表サイト](#) 



3. インストールとセットアップ

(4)ソースコードをcloneする

cloneするためのディレクトリを作成してください。(例:mlit-geospatial-mcp)

コマンドプロンプトを起動して、任意のディレクトリに移動し、cloneします。

```
例: cd mlit-geospatial-mcp  
git clone https://github.com/chirikuuka/mlit-geospatial-mcp.git
```



※cloneのURLは、githubにてページ上部の「code」ボタンからコピーできます。



3. インストールとセットアップ

(5) 仮想環境を作成 & 有効化

仮想環境の作成・有効化を実施します。
(ディレクトリはそのままmlit-geospatial-mcp上で実施)

```
python -m venv .venv
.venv\Scripts\activate      # Windowsの場合
source .venv/bin/activate   # macOS/Linuxの場合
```



(.venv) C:¥Users¥username¥chirikukan-mcp>の状態になれば成功です。



3. インストールとセットアップ

(6) 依存ライブラリをインストール

以下のコマンドを実行します。

```
pip install -r requirements.txt
```



3. インストールとセットアップ

(7) Claude Desktopの設定ファイルを開く

Claude Desktopアプリの設定画面にある「開発者」メニューの「設定を編集」ボタンをクリックして`claude_desktop_config.json`を開いてください。

Windows:

`C:\Users<ユーザー名>\AppData\Roaming\Claude\claude_desktop_config.json`

macOS:

`~/Library/Application Support/Claude/claude_desktop_config.json`

※初回インストール時は`claude\_desktop\_config.json`は存在しません。アプリの設定画面から設定ファイルを開くと自動的に作成されます。



3. インストールとセットアップ

(8) MCPサーバーの構成を追加

claude_desktop_config.jsonに下記を記載します。

```
{
  "mcpServers": {
    "mlit-geospatial-mcp": {
      "command": "...../mlit-geospatial-mcp/.venv/Scripts/python.exe",
      "args": [
        "...../mlit-geospatial-mcp/src/server.py"
      ],
      "env": {
        "LIBRARY_API_KEY": "your_api_key_here",
        "PYTHONUNBUFFERED": "1",
        "LOG_LEVEL": "WARNING"
      }
    }
  }
}
```

* `command`と`args`は必ず、実際のパスに変更してください。
(例:C:/Users/username/chirikukan-mcp/.venv/Scripts/python.exe)

* `your_api_key_here`は必ず、手順4で取得したキーに置き換えてください。



3. インストールとセットアップ

(9) Claude Desktop を再起動

Claude Desktopの左上にある「≡」のファイル＞終了をクリックして終了し、再度Claude Desktopを起動します。

※Claude Desktopが起動しない場合は、タスクマネージャーで「タスクの終了」を実行した後、再度起動を試してください。



4. 免責事項

- 本リポジトリで提供されるデータの利用に関しては、不動産情報ライブラリの利用規約に従う必要があります。ご使用前に不動産情報ライブラリの利用約款を必ずご確認ください。
- 本リポジトリの個人情報の取り扱いは、不動産情報ライブラリのプライバシーポリシーに準拠しております。
- 本リポジトリは α 版として提供しているものです。動作保証は行っておりません。
- 本リポジトリの内容は予告なく変更・削除する可能性があります。
- 使用しているツール・技術要素等(Claude、Github、Pythonなど)に関するお問い合わせにつきましてはお答えすることができません。不動産情報ライブラリのAPIに関しては、不動産情報ライブラリのお問い合わせフォームより問い合わせください。
- 本リポジトリの利用により生じた損失及び障害等について、国土交通省及び不動産情報ライブラリはいかなる責任も負わないものとします。



(参考) 利用イメージ

